

第 2 回（仮称）草津市立プール整備基本計画検討懇話会における  
主な意見と市の考え方について

○は懇話会での意見・対応  
→は懇話会後の事務局対応

主な意見	市の考え方
【「資料 4 周辺土地利用計画の状況について」「資料 5 先催地のプール施設の事例」「資料 6 先催地における諸室の設置状況について」】	
● プールの駐車場スペースについて、今の段階ではどの程度の規模でお考えか。	○ 駐車場については、周辺の駐車場やイベント開催状況を含めて規模を決定する予定です。
● 障害のある方の優先駐車場は検討しているのか。	→ 障害のある方の優先駐車場は、関連法令等を参照しながら、台数や設置する位置等について検討します。
● プール数を 2 つで考える場合、飛込プールは可動床にすることで一般用でも使えるようにしていただきたい。	→ 現時点では、50mプールと 25m飛込兼用プールの整備を想定しており、いずれも可動床を導入することにより一般の方も利用していただけるよう検討しております。
● 今後、競泳でも水深は 3m が求められるようになると思う。 ● アーティスティックスイミングについては、水深 3m の範囲が 12m×12m あれば大会開催は可能。このようなことも考慮してほしい。	→ プールの水深については、各競技大会の開催や競技者の練習会場としての利用なども見据えながら検討します。
● 国体開催後の需要を考えたプールにしてほしい。高齢者や子どもに喜んでもらえるようなプールを期待する。	→ 国体後も、市民・県民のスポーツ振興や健康づくりに資する施設となるよう、必要な諸室や機能について検討します。
● 大会時は、車いすの方もたくさん来られるので、車いすを置く場所、十分な広さを確保した更衣室を設けてほしい。そのような施設になれば、障害者の大会も誘致しやすいと思う。	→ 障害のある方もない方も、幅広く利用していただける施設とするため、多目的更衣室の設置や、車いすを置く場所、車いす用観客席の設置を検討します。
● 更衣室について、障害のある方やジュニアの方々に対して、今回の施設整備の考え方を教えていただきたい。	○ 複数の方が利用される場合や、障害のある方と介助者が異性の場合でも利用できることなどを考慮して設計している事例を踏まえ、施設整備を検討します。
● 他施設のプールでは、スイミングスクール等により子どもの利用が多いことから、子ども用、大人用のロッカーを分けることなどを考えていただきたい。	→ 更衣室内の設備については、子どもから高齢者まで、初心者から競技者まで誰もが利用しやすい施設となるよう検討します。
● プールの水温について、競技者としては 27℃～29℃の間が最も泳ぎやすいが、一般利用者にとっては、寒いため、温度調節可能であればありがたい。	○ 利用者の声を聴きながら、プールごとに温度調節をするなど運営側で工夫することが可能です。

主な意見	市の考え方
【資料7 整備手法について】	
● 滋賀国体に向けて、県内では県立体育館のPFI方式と彦根陸上競技場の従来方式、2つの手法が使われているが、市民の意見が入りやすいのはどちらか。	→ 従来方式の場合、行政主導で仕様を発注していくことになるため、一般的に意見が取り入れやすい手法と言えます。
● 地元業者の参入を考えていく必要がある。	→ 先進事例における地元企業のPFI事業等への参画については、落札者決定基準の設定に関して地元企業との協力体制や地域活性化に関する提案へ加点を行うなど、一定の配慮を行っている場合があります。今後、先進事例等を参考にしながら、地元企業の事業への関わり方について検討します。
● バリアフリーの視点から、法律で決められた数値を守るだけでなく、どの手法になったとしても、直接障害のある方にご意見を聞いていただける機会を設けていただきたい。	→ 全国障害者スポーツ大会の開催を見据えるとともに、障害のある方もない方も利用しやすい施設とするため、御意見を取り入れて検討を進めます。
● 資金調達や事例を見極めて手法を決定していただきたい。 ● 仕様発注と性能発注の両方の視点が必要だと思う。	→ 事業手法については、従来手法と民間活力導入手法の比較を行うとともに、資金調達の手法や先進事例の取組を参考にしつつ、より効率的・効果的な手法の選定を行います。
● 例えば地域の団体がプールでプログラムを実施したい場合、PFI方式では今まで通り、安く、自由に使えるのか、ということも考慮していただきたい。	→ 施設の利用については、プール整備の方向性等を定める基本計画の策定後、具体的な検討を進めます。
● 従来方式、DBO方式、DB方式、PFI方式の4つの事業手法の工期、建設費を教えてください。	→ 第3回以降の懇話会で、事業手法ごとの工期、事業費の比較について、順次、資料をお示しして、御意見等をいただきたいと考えます。
● 県がPFI方式を推奨される場合、工期的に県の協力がないと難しいと思う。民間のノウハウを活かすため、DBO方式かDB方式がよいのではないかと考える。運営まで含めるのが困難であれば、DB方式がよいのではないか。	→ PFI方式では法定手続きを踏んでいく必要があり、スケジュールの長期化が想定されることから、経験と実績を持つ滋賀県の協力が必要不可欠と考えます。 → 適切な事業手法の選定に向けて、検討を進めます。

主な意見	市の考え方
<b>【意見交換】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現在は、自分の健康のためにプールに行っている人は少ないが、今後計画が具体化していくと、皆さんに関心を持っていただけると思う。</li> <li>● プールは、着替えないといけないというのがハードルだが、プールができたなら行こうという意識は皆さんあると思う。国体開催後も市民の方が楽しんでいただけるようなプールとしていただきたい。</li> </ul>	<p>→ 新プールは、国体の水泳競技会場としてだけでなく、大会後も多くの方が水泳を通して、健康増進や体力向上、心身のリフレッシュが図ることができる施設となるよう整備・運営を行います。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 草津市にプールができれば、世界マスターズ開催の機会も作っていただきたい。</li> <li>● 予算があれば各専用のもをすべて作れば良いが、それはできないと思うので、うまく各々妥協をしながら設計を考えていただきたい。</li> </ul>	<p>→ 国内の大規模大会の開催が可能となる機能の整備を検討しております。今後、費用対効果等を検証しながら、施設の規模や機能を決定します。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● プールの建設後には、競技大会と一般利用がバッティングする部分が必ず出てくるので、どのように運用していくかもしっかり考えていくことが重要である。</li> </ul>	<p>→ 競技大会に限らず、一般の方にも利用していただけるよう、運用についても検討します。</p>